

殿山第二小だより

令和 4 年 5 月 23 日 第 7 号

枚方市立殿山第二小学校

TEL:050-7102-9044

発行責任者 校長 山本 容子

継続は力なり その1

5月4日に総務省が発表した、日本の14歳以下の子供の数は、前年より25万人少ない1,465万人。この数値は、41年連続で減少しているということです。総人口（1億2,519万人）に占める割合も0.1ポイント下がって、11.7%となり48年連続で低下傾向です。

国の人口推計と同様に、枚方市の人口を見てみると、令和4年4月1日現在、396,273人で、その内、14歳以下の子供の数は、48,432人。枚方市総人口に占める割合は、約12%となります。

このことは、『少子高齢化』はとどまることなく年々進んできているということです。

人口の減少、コロナ禍、紛争等々、様々な社会不安が生起する状況の中にある現在ですが、殿山第二小学校で学び、生きる子どもたちも後10年も経てば、“社会人”として独り立ちしていきます。小学校時代に培った、様々な生きる力を基盤として……。

そう考えると、『学校には、将来、社会で活躍できる、自立・自律した“人づくり”を担う大きな責任がある』と、あらためて、身の引き締まる思いです。

「自立」は、他の援助や支配を受けず、自分の力で判断したり身を立てたりすること。そして「自律」は、自分の行為を主体的に規制すること。と広辞苑に示されています。子どもたちの10年先の社会人としてあるべき姿をイメージしながら、小学校時代の「今、学ぶべきこと！」を着実に身につけていけるように、一日一日の学校生活を充実したものにしていきたいと考えています。

子どもたちの心身の健やかな成長のためには、学校・家庭・地域が互いにつながりあい、人と人とが和やかにかかわる環境づくりが必要なことと思います。今後とも保護者の皆様・地域の皆様方のご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

自分の考えを伝えるということ

学校では、“わかる・できる授業づくり”を創造していく一つの手だてとして、『書く』という時間を意識して取り組んでいます。

わかったこと・気がついたこと・考えたこと等を『書く』ことで自分自身の思考を整理し、周囲の人たちに正しく伝えられるように『話す力』『表現する力』につながるものだと考えているからです。

また、話を『きく力』も、『書く力』が身につくことで、一つ一つの言葉から相手の想いを想像して『きく』ことができるようになると考えています。

さて、私事ですが、殿山第二小学校の校長として、思いや考えを保護者の皆様や地域の皆様に伝えたいと考え、「殿山第二小だより」を発行しているのですが、毎回毎回、この文章で伝わるのだろうかと思い悩んでいます。「文字として残ることで、誤解を招いてしまう表現になってはいないだろうか」「自分の伝えたいことは、この表現でよいのか」と心配はつきません。しかしながら、今回のテーマ『継続は力なり』を私自身にも言いかけせながら、自分の思い・想いや考えを伝えることを続けていきたいと思っています。

「殿ニツコリ」は、
殿山第二小学校の合言葉です。
あかるく いつも さきに つたえる
「あいさつ」で、さわやかな朝のスタートをきり、
人への感謝の思いを伝えあいながら、一日の生活に
メリハリをつけていきましょう。